

作物名：りんご

病害虫名：ギンモンハモグリガ（学名：*Lyonetia prunifoliella malinella*）



ギンモンハモグリガ繭

### 1 被害の特徴と診断のポイント

- ・幼虫が葉に線状や斑状に潜孔する。葉の裏にハンモック状の繭をつくり蛹化する。
- ・被害が広がると、葉の半分から全体が食害され、褐変して落葉する。
- ・第三世代の発生する7月後半から被害が目立つようになり、被害は樹冠の外側に多くなる。

### 2 発生生態

- ・東北では年5～6回発生する。第二世代は6月中旬～下旬，第三世代は7月上旬，第三世代以降はおよそ25日周期で世代を繰り返す。発生世代を繰り返すにつれ，発生量が増加する。
- ・成虫態の雌が人家等の壁面，樹の空洞部，生垣等で越冬する。越冬世代は展葉期頃園内に飛来し，若い軟らかい葉の裏側から葉内に卵を生み付ける。第二世代以降は徒長枝や二次伸長枝の先端の若い葉に限り産卵する。

### 3 防除方法

- ・産卵盛期に，IGR 剤等を新梢全体にていねいに散布する。

### 4 出典

- (1)参考文献：ひと目でわかる果樹の病害虫 第三巻（日本植物防疫協会）  
農業総論 病害虫防除 資材編5（農文協）
- (2)写真：宮城県病害虫防除所撮影